

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 清水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

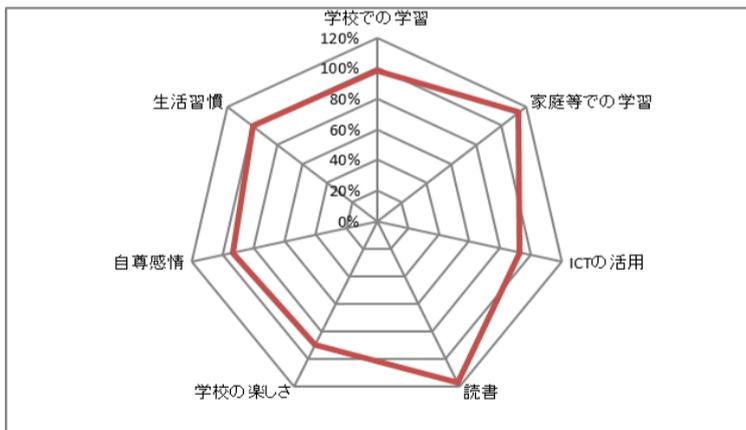
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」とともに、全国平均を上回った。「話すこと・聞くこと」の正答率が特に高い。「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」の問題において、全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「たがいの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」問題の正答率が低い。	
算数	全体的な傾向や特徴など	正答率は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」とともに、全国平均を上回った。「数と計算」「図形」の正答率が特に高い。全ての領域において、全国平均を下回る領域はなかった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す」の正答率が特に高い。	
	努力が必要な問題	「果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mlのときの、果汁の量を書く」問題の正答率がやや低い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	正答率は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」とともに、全国平均を上回った。「粒子を柱とする領域」の正答率が特に高い。全ての領域において、全国平均を下回る領域はなかった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「凍った水溶液について、試してみたいこと基に、見いだされた問題を書く」問題の正答率が特に高い。	
	努力が必要な問題	「鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く」問題の正答率がやや低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、どれくらいの時間、読書をしますか。」等の読書に関する項目が、全国平均を大きく上回った。 ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、どれくらいの時間、勉強をしますか。」等の家庭学習に関する項目が、全国平均を上回った。 ・「自分にはよいところがある」等の自尊感情に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を大きく下回った。 ・「学校に行くのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」の質問に対し、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を下回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ 調べ学習や発表ツール、ドリル学習等で、積極的にGIGA端末を授業に活用し、自分で課題解決を図れるようにしていく。
- ・ 1時間の授業で、学習ノート(ワークシート)等に自分の考えを書かせる時間や話し合う活動の時間を確保するとともに、感染症予防を徹底しながら、場や形態を工夫して児童が説明する場面を増やしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ たてわり活動や委員会活動等、児童が活躍できる場を多く設定し、その様子を学校通信やホームページ等で家庭へ伝え、家庭でも児童をほめ、認められるようにしていく。
- ・ 学校行事等を通して、児童の活躍を認め、児童が達成感を味わうことで、自信を持つことができるようにする。